

BUSINESS

リーダーになる!

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 ■ リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第100回 赤信号は渡らない

不祥事や不正はギリギリのラインで起きます。善対悪とせば、49対51の割合。信念を持って正しいことを貫き、間違いを正す勇気を持ちましょう。

「49対51の法則」というのを知っていますか？ 心の中で判断するときには、だいたい49対51くらいのわずかの差で、勝負がついていることが多いという意味です。

企業の不祥事、個人の不正など、事件は後を絶ちませんが、その多くは最初から犯罪に手を染めようとしていたわけではありませぬ。つまり、悪い心が100%ではないということですね。実際には、50前後のこと

信号を渡っています。最初は待つていた人でさえ、信号無視をしている人を見て、自分も無視するようになってしまいます。

わたしは、そういつた悪い心がはびこらないように、善の心を養うように心掛けています。善い心を持つということとは、上司、部下を問わず必要なことです。特に上司であれば、より高い意識で、善い心を持ち続けてほしいものです。会社においては、上司の判断が部下の行動を決定してしまうことも多いはずですね。その上司の判断が、悪い心に支配されていたのでは、まったく意味がありません。

流れを作るのがリーダー 信念貫き間違いを正す

また、信号無視の例のように、周囲が渡っているから自分もなどと流されるいけません。リーダーは人に流されず、自ら流れを作る存在でなければなりません。人に流されてしまふ人は、周りの流れが止まってしまうたら、自分も止まってしまう。一方、自

ら流れを作る人は、周りの流れが止まっても、流れ続けることができます。

自分の信念を持って、正しいことを貫き、間違いを正す勇気を持った上司になってください。そういった上司が部下を育て、企業全体に善が波及して、上質な企業文化を形成するのです。（『上司のルール』より転載）

